

マクニカ・富士エレ ホールディングス株式会社 平成28年3月期 第2四半期 決算説明会資料（プレゼン編）

2015年11月2日

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

第一部

Ⅰ 2016年3月期上期実績（連結）

Ⅱ 2016年3月期予想（連結）

Ⅲ 株主還元

第二部

Ⅰ 経営方針

Ⅱ 中期経営計画（2016～2018年度）

※企業結合に関する会計基準に基づき、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日（13ヶ月）の連結業績を連結しております。

※当第2四半期連結累計期間は、株式会社マクニカの2015年4月1日から2015年9月30日まで（6ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社の2015年3月1日から2015年9月30日まで（7ヶ月）の連結業績を連結しております。

※2016年3月期より、ドイツのMacnica GmbHが連結対象となりました。

※2015年3月期に関しましては、マクニカ（2015年3月期）と富士エレクトロニクス（2015年2月期）の単純合算となります。

※2016年3月期下期予想は、株式会社マクニカ及び富士エレクトロニクス株式会社の2015年10月1日から2015年3月31日まで（6ヶ月）の連結業績を連結しております。

※2015年11月2日に2016年3月期通期予想の修正を発表しました。

第一部

I 2016年3月期上期実績（連結）

II 2016年3月期予想（連結）

III 株主還元

第二部

I 経営方針

II 中期経営計画（2016～2018年度）

I 2016年3月期上期実績

連結業績ハイライト（前年同期比）

（単位：億円）	2014年度 上期実績※2	2015年度 上期実績※1	差異	前年 同期比
売上高	1,650	2,011	361	21.9%
売上総利益	212	228	16	7.5%
営業利益	55	54	▲1	▲1.9%
経常利益	50	57	7	13.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	34	56	22	64.4%

※1 企業結合に関する会計基準に基づき、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日（13ヶ月）の連結業績を連結しております。当第2四半期連結累計期間は、株式会社マクニカの2015年4月1日から2015年9月30日まで（6ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社の2015年3月1日から2015年9月30日まで（7ヶ月）の連結業績を連結しております。

※2 2016年3月期より、ドイツのMacnica GmbHが連結対象となりました。

※2 2015年3月期に関しては、マクニカ（2015年3月期）と富士エレクトロニクス（2015年2月期）の単純合算となります。

mf Macnica Fuji Electronics

5

I 2016年3月期上期実績

連結業績ハイライト（予想比）

（単位：億円）	2015年度 上期予想 （7/27発表）	2015年度 上期実績※1	差異	予想比	増減要因
売上高	1,878	2,011	133	7.1%	サーバー・ストレージ、車載、海外ローカルビジネスが伸長 ネットワーク事業の拡大
売上総利益	239	228	▲11	▲4.7%	携帯端末、メモリー等の大型ビジネスが拡大 円安進行による仕入原価の増加
営業利益	60	54	▲6	▲10.0%	人員増及び売上増加に伴う変動費の増加
経常利益	64	57	▲6	▲10.1%	営業利益の計画未達による
親会社株主に帰属 する当期純利益	58	56	▲2	▲2.8%	営業利益の計画未達による

※1 企業結合に関する会計基準に基づき、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日（13ヶ月）の連結業績を連結しております。当第2四半期連結累計期間は、株式会社マクニカの2015年4月1日から2015年9月30日まで（6ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社の2015年3月1日から2015年9月30日まで（7ヶ月）の連結業績を連結しております。

2016年3月期より、ドイツのMacnica GmbHが連結対象となりました。

※2 2015年3月期に関しては、マクニカ（2015年3月期）と富士エレクトロニクス（2015年2月期）の単純合算となります。

mf Macnica Fuji Electronics

6

連結貸借対照表

(単位: 億円)	2015年 9月末	主な要因
流動資産	1,931	現金及び預金231億円、売上債権806億円、商品762億円等
固定資産	143	有形固定資産65億円、投資その他の資産63億円等
資産合計	2,074	
流動負債	858	仕入債務412億円、短期借入金177億円等
固定負債	141	長期借入金79億円等
負債合計	999	
純資産合計	1,076	資本金100億円、資本剰余金426億円、利益剰余金475億円等の株主資本が999億円
負債純資産合計	2,074	

※1 企業結合に関する会計基準に基づき、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日(12ヶ月)の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日(13ヶ月)の連結業績を連結しております。当第2四半期連結累計期間は、株式会社マクニカの2015年4月1日から2015年9月30日まで(6ヶ月)の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社の2015年3月1日から2015年9月30日まで(7ヶ月)の連結業績を連結しております。2016年3月期より、ドイツのMacnica GmbHが連結対象となりました。

※2 2015年3月期にしましては、マクニカ(2015年3月期)と富士エレクトロニクス(2015年2月期)の単純合算となります。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 億円)	2015年度 上期	主な要因
営業活動による キャッシュ・フロー	▲13	税金等調整前四半期純利益76億円、仕入債務の増加等の増加要因があったものの、売上債権の増加、たな卸資産の増加及び負のれん発生益の計上等の減少要因があったことによるもの
投資活動による キャッシュ・フロー	▲12	有形・無形固定資産及び貸付金の純増等の減少要因によるもの
財務活動による キャッシュ・フロー	46	配当金の支払い等の減少要因があったものの、短期及び長期借入金の純増等の増加要因があったことによるもの
現金及び現金同等物の 期末残高	230	期首に比べ19億円増加し、株式移転により73億円及び連結の範囲の変更に伴い3億円それぞれ増加

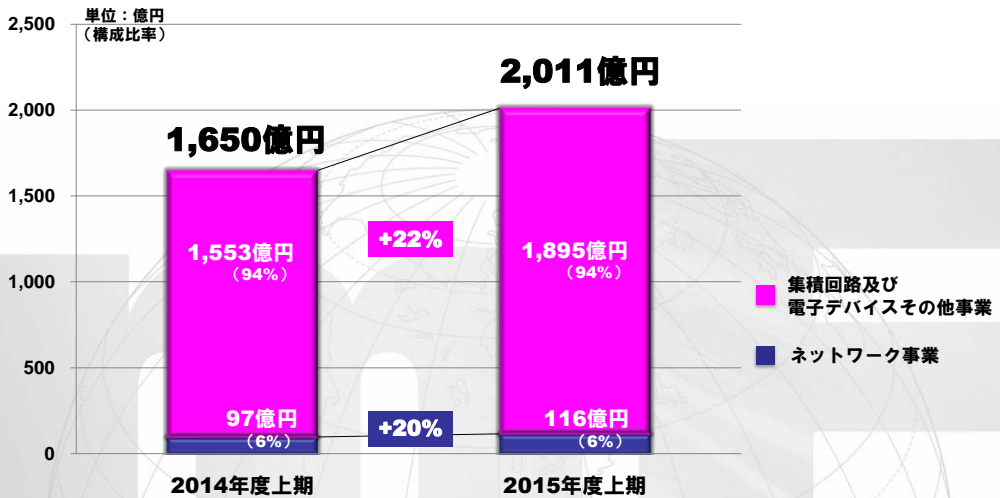
※1 企業結合に関する会計基準に基づき、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日(12ヶ月)の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日(13ヶ月)の連結業績を連結しております。当第2四半期連結累計期間は、株式会社マクニカの2015年4月1日から2015年9月30日まで(6ヶ月)の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社の2015年3月1日から2015年9月30日まで(7ヶ月)の連結業績を連結しております。2016年3月期より、ドイツのMacnica GmbHが連結対象となりました。

※2 2015年3月期にしましては、マクニカ(2015年3月期)と富士エレクトロニクス(2015年2月期)の単純合算となります。

I 2016年3月期上期実績

セグメント別：連結売上高

2,011億円 前年同期比+21.9%



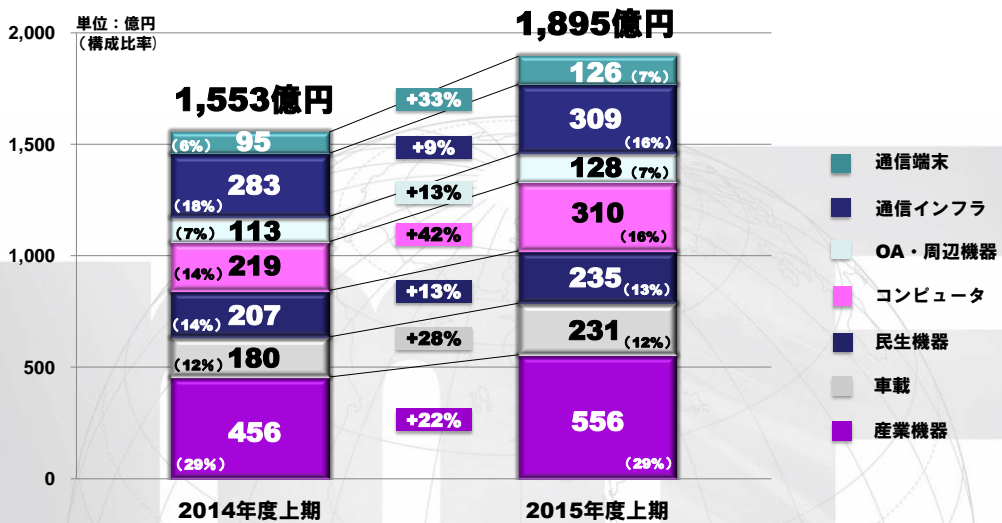
mf Macnica Fuji Electronics

9

I 2016年3月期上期実績

集積回路及び電子デバイスその他事業（用途別）

1,895億円 前年同期比+22.0%



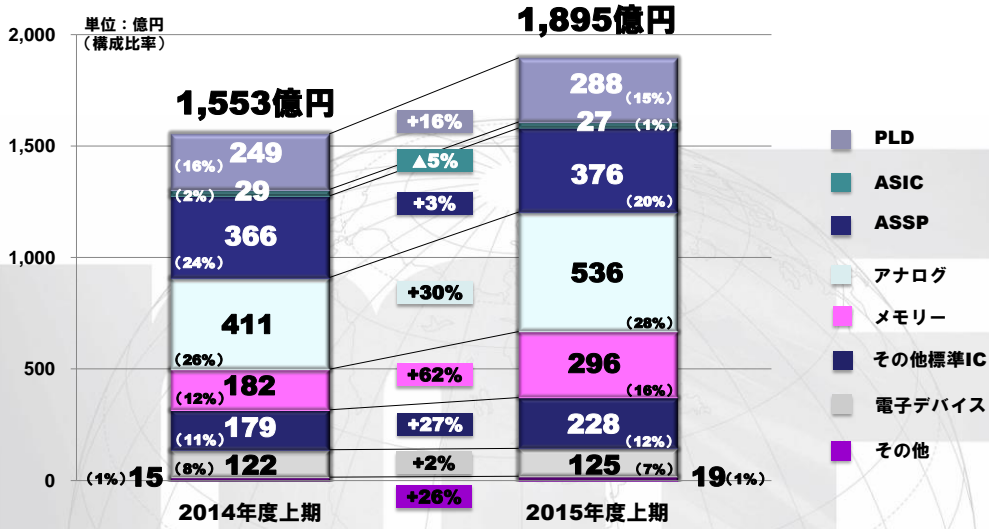
mf Macnica Fuji Electronics

10

I 2016年3月期上期実績

集積回路及び電子デバイスその他事業（品目別）

1,895億円 前年同期比+22.0%



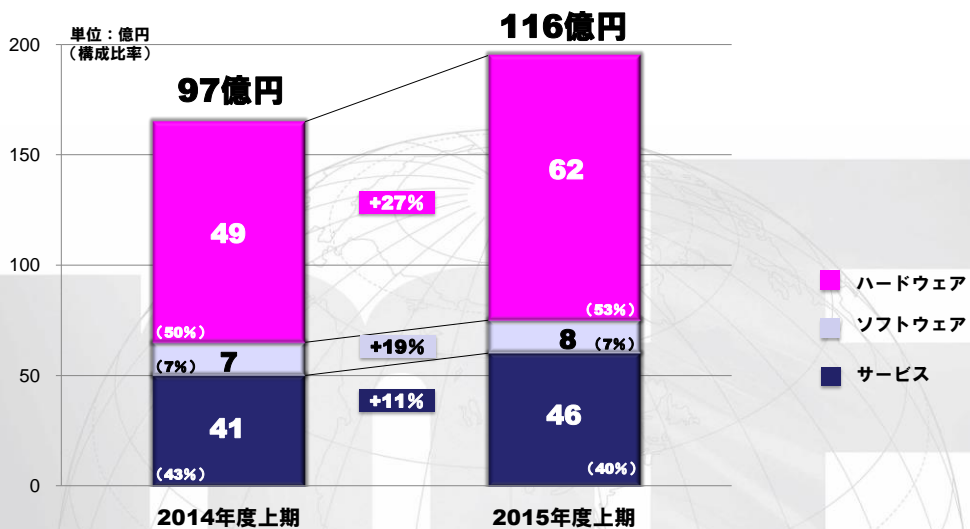
mf Macnica Fuji Electronics

11

I 2016年3月期上期実績

ネットワーク事業（品目別）

116億円 前年比+19.5%



mf Macnica Fuji Electronics

12

第一部

I 2016年3月期上期実績（連結）

II 2016年3月期予想（連結）

III 株主還元

第二部

I 経営方針

II 中期経営計画（2016～2018年度）

II 2016年3月期予想

連結予想ハイライト

(単位：億円)	2014年度 実績※2 (6ヶ月)	2015年度			前年比
		上期実績※1	下期予想※3	通期予想※4 (11/2発表)	
売上高	3,420	2,011	1,959	3,970	16.1%
売上総利益	436	228	215	443	1.6%
営業利益	110	54	43	97	▲11.9%
経常利益	97	57	45	102	4.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	56	56	19	75	33.1%

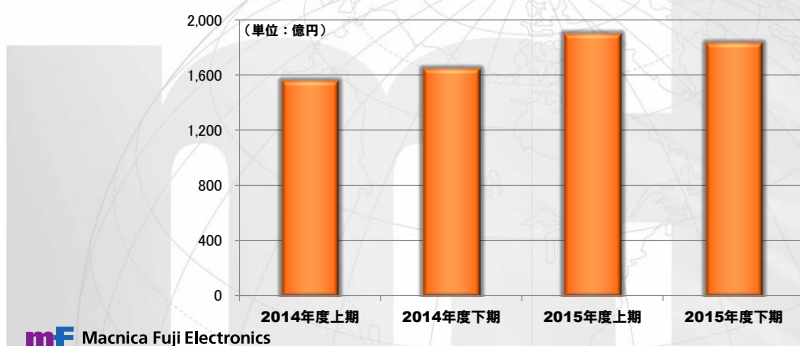
- ※1 企業結合に関する会計基準に基づき、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日（13ヶ月）の連結業績を連結しております。当第2四半期連結業績計期間は、株式会社マクニカの2015年4月1日から2015年9月30日まで（6ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社の2015年3月1日から2015年9月30日まで（7ヶ月）の連結業績を連結しております。
- ※2 2015年3月期より、ドイツのMacnica GmbHが連結対象となりました。
- ※3 2015年3月期にしましては、マクニカ（2015年3月期）と富士エレクトロニクス（2015年2月期）の単純合算となります。
- ※4 2016年3月期下期予想は、株式会社マクニカ及び富士エレクトロニクス株式会社の2015年10月1日から2015年3月31日まで（6ヶ月）の連結業績を連結しております。
- ※5 2015年11月2日に2016年3月期通期予想の修正を発表しました。

集積回路及び電子デバイスその他事業



景気は不透明感が強く、半導体市場は弱含み。

- 携帯端末は、需要増により大きく拡大。
- コンピュータは、サーバー・ストレージ市場向けが好調。
- 車載は、市場が減速するも、新規ビジネス立ち上がり等によりフラット。
- 通信インフラは、設備投資一巡化によりフラット。
- 産業機器は、FA機器・計測器等の在庫調整等により不透明。

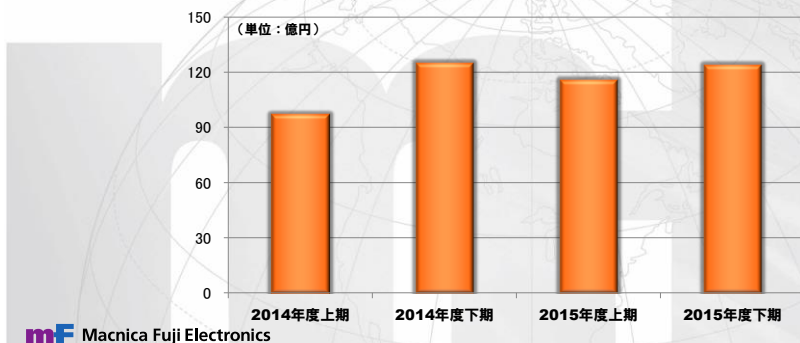


ネットワーク事業



セキュリティ市場は引き続き拡大傾向。

- 標的型攻撃に対応する高度なセキュリティ関連商品が拡大。
- セキュリティ市場向けの関連機器も引き続き好調。
- クラウド関連のソフトウェアやエンドポイント・セキュリティ商品等の新規商材に期待。



第一部

I 2016年3月期上期実績（連結）

II 2016年3月期予想（連結）

III 株主還元

第二部

I 経営方針

II 中期経営計画（2016～2018年度）

III 株主還元

① 配当予想

株主の皆さまの日頃のご支援に感謝の意を表すとともに、この度の経営統合および東京証券取引所市場第一部指定を記念いたしまして、2016年3月期の期末配当において1株あたり5円の記念配当を実施させていただくことといたしました。この結果、2016年3月期の1株あたりの期末配当は、普通配当35円とあわせて40円となる予定であります。

配当の回数については中間配当並びに期末配当の年2回を原則としておりますが、当連結会計年度につきましては、マクニカ・富士エレホールディングス株式会社発足の初年度ということもあり、期末日を基準とした年1回の配当を予定しております。

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
2015年3月期	—	—	—
2016年3月期	—	—	—
2016年3月期（予想）	—	40.00	40.00

②株主優待

■ 内容

保有株数	優待内容
100株以上～200株未満	QUOカード 1,000円分
200株以上～500株未満	下記2種のうち①または②のどちらか一つをご選択いただけます。
500株以上	下記2種①②両方ご利用いただけます。

① 優待商品

専用カタログの中から
好きなものを1点選択する
ことができます。(3000円相当)



※写真はイメージです。

② 優待クラブオフサービス

宿泊・レジャー・スポーツ・ショッピング
・グルメ等の施設やサービスを割安な価格で
利用可能な会員特典を付与します。

(全国20,000店舗以上、1年間有効・何回でもご利用いただけます)



※写真はイメージです。

■ 対象・開始時期

毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された、1単元(100株)以上を
保有する株主様を対象といたします。

贈呈時期は、毎年6月ごろを予定しております。

第一部

I 2016年3月期上期実績(連結)

II 2016年3月期予想(連結)

III 株主還元

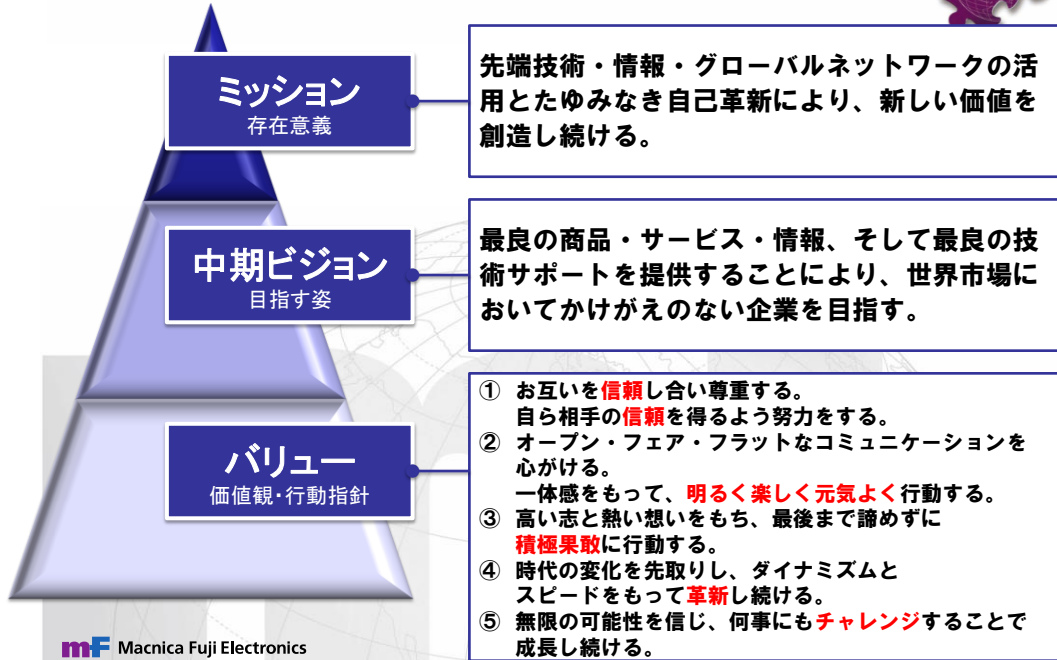
第二部

I 経営方針

II 中期経営計画(2016～2018年度)

I 経営方針

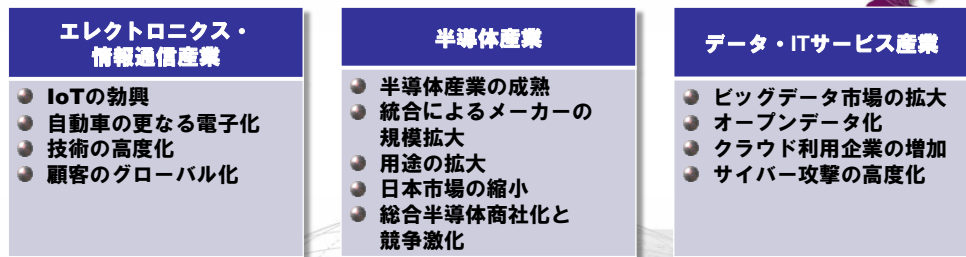
経営方針



21

II 中期経営計画（2016年～2018年度）

経営環境と中期基本方針



成長の追求による優位ポジションの確立

1 成長戦略

- ① 統合効果によるシェア拡大
- ② グローバル戦略の強化
- ③ 成長加速の施策

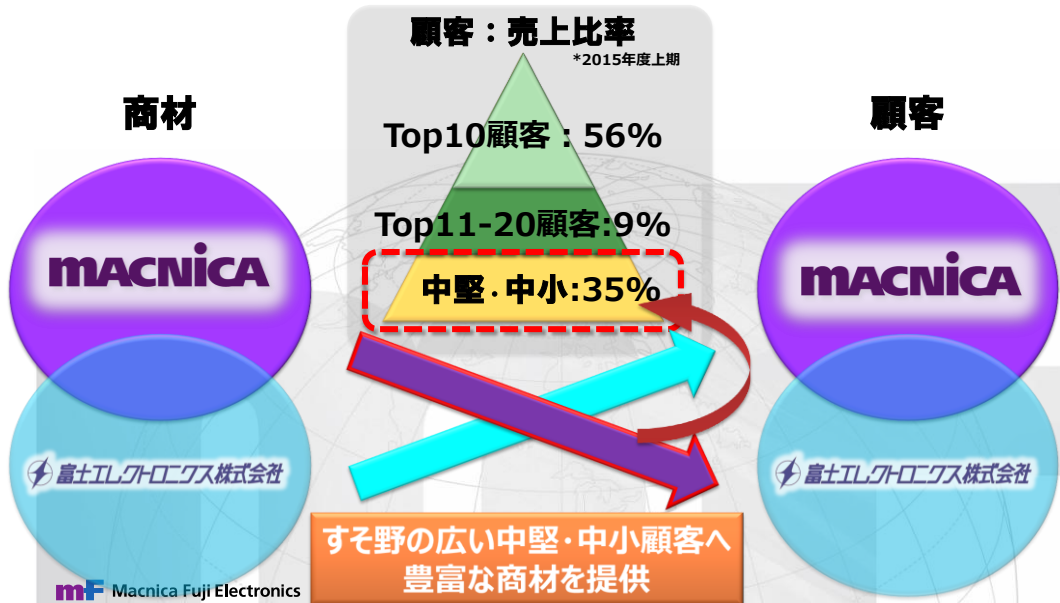
2 中期経営目標

mf Macnica Fuji Electronics

22

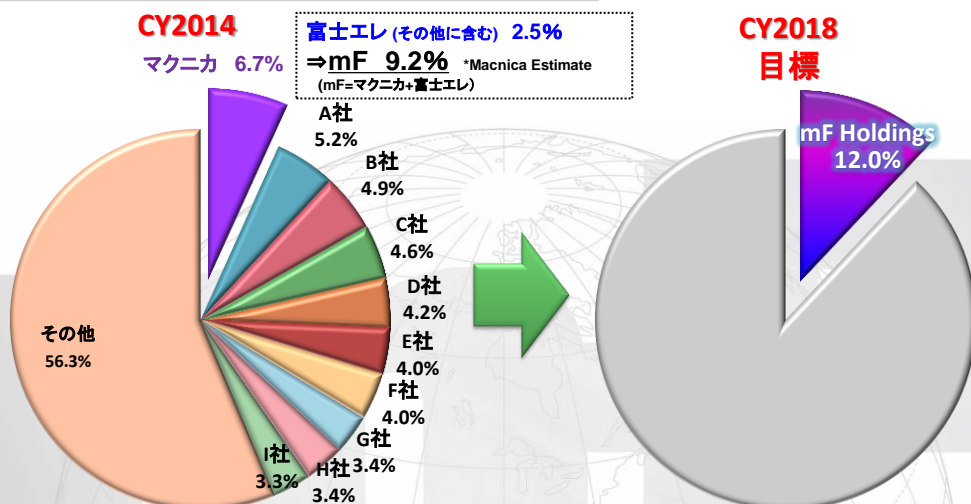
1 成長戦略：①統合効果によるシェア拡大

■ 国内（半導体事業）No.1ポジションのさらなる拡大



1 成長戦略：①統合効果によるシェア拡大

■ 国内（半導体事業）No.1ポジションのさらなる拡大
半導体商社の半導体売上ランキング（日本市場）

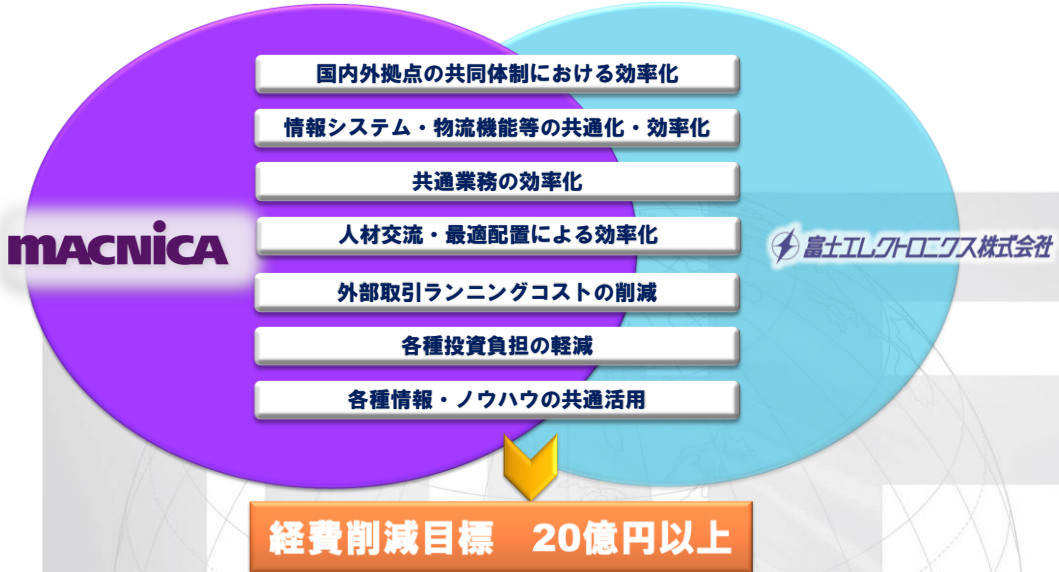


Source: Gartner, "Market Share: Semiconductor Distributors, Worldwide, 2014" 25 February 2015, Chart created by Macnica based on Gartner data.

Source: Macnica

1 成長戦略：①統合効果によるシェア拡大

■ 統合による生産性・経営効率の向上



1 成長戦略：②グローバル戦略の強化



1 成長戦略：②グローバル戦略の強化

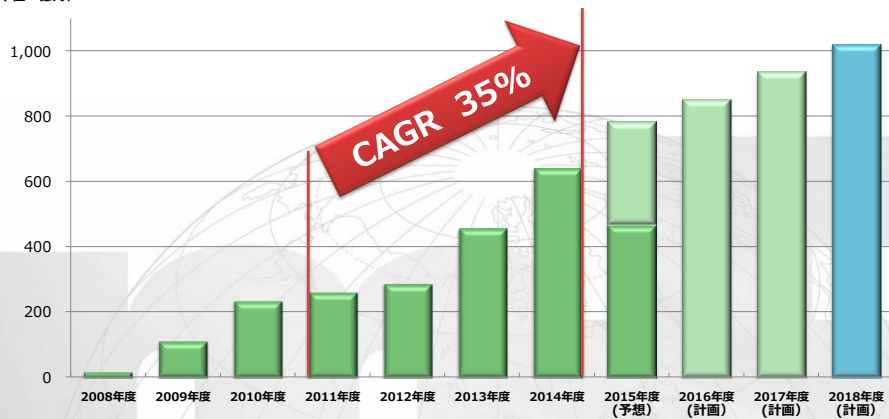
国内契約仕入先の海外展開



1 成長戦略：②グローバル戦略の強化

アジアローカル市場

（単位：億円）



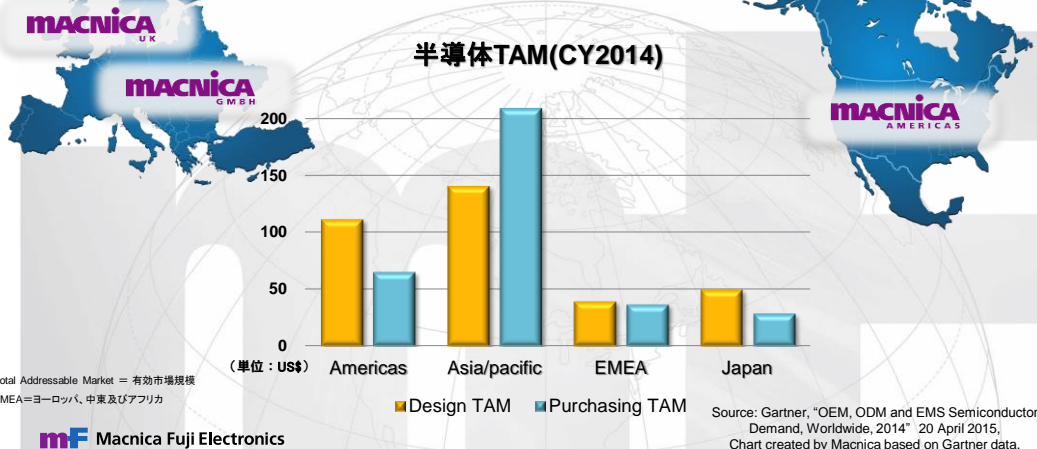
アジアローカル市場の拡大

1 成長戦略：②グローバル戦略の強化

■ 北米・欧州市場

※Macnica Americas及び、Macnica UKは現在非連結子会社

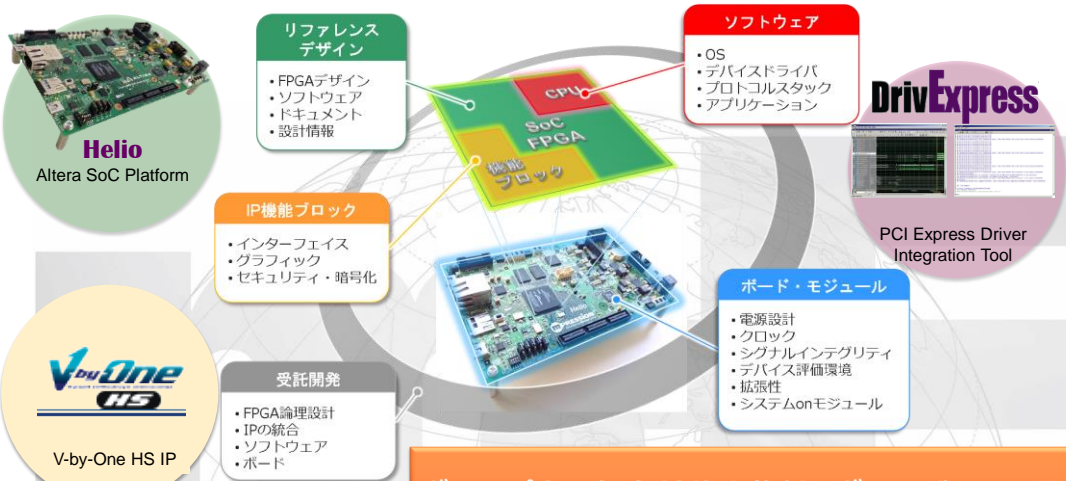
日本の倍を超えるデザインTAM¹⁾ : Americas
日本を上回る購買TAM : EMEA²⁾



¹⁾ : Total Addressable Market = 有効市場規模
²⁾ : EMEA=ヨーロッパ、中東及びアフリカ

1 成長戦略：②グローバル戦略の強化

■ グローバル技術ブランド



グループ内の保有技術を集結しグローバルに展開

1 成長戦略：③成長加速の施策

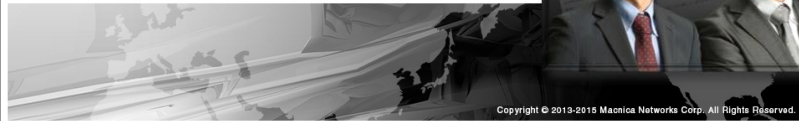
■ マーコム強化による顧客層の拡大

*マーケティング・コミュニケーション

➡ 国内随一のセキュリティ対策ソリューションの提供

- ✓ セキュリティ研究センターブログによる情報発信

マクニカネットワークス セキュリティ研究センターブログ



◀ 2015年9月 ▶
日 月 火 水 木 金 土
1 2 3 4 5
6 7 8 9 10 11 12
13 14 15 16 17 18 19
20 21 22 23 24 25 26
27 28 29 30

カテゴリ

APT

Webアプリケーション

イベント

インテリジェンス

セミナー

2015年9月17日（木）

MNCTF2015 WriteUp 回答案

7月に行われたセキュリティコンテスト「Macnica Networks CTF」の解説を公開します。問題サーバは継続して公開しておりますので、どなたでもチャレンジしていただけます。

続きを読む »

投稿者 SHINOGI 日時 2015年9月17日（木） 20:54 セミナー | 個別ページ

いいね! (12) Tweet (2) G+ (0) 2

プロフィール



今年も自作ツールを展示



セキュリティ研究センター

サイバーセキュリティに特化した研究センターを目的として2013年4月に開設。

ミッション

・サイバー攻撃の研究
・海外の最先端セキュリティ技術の

1 成長戦略：③成長加速の施策

■ マーコム強化による顧客層の拡大

*マーケティング・コミュニケーション

➡ Eコマースサイト“Macnica Online Store(MOS)”による新市場開拓

- ✓ 新発想の「デマンドクリエーション（需要創出型）オンラインストア」
- ✓ 「メイカーズ」を初めとする幅広い顧客層にデバイスとソリューションを提供

MACNICA Online Store



顧客：売上比率

*2015年度上期

Top10顧客：56%

Top11-20顧客：9%

中堅・中小：35%

メイカーズ等

1 成長戦略：③成長加速の施策

■ M&Aによる成長

- ➔ グループ成長を一段と加速していくための更なるM&A

■ 新規事業への布石

- ➔ Macnica Ventures始動
 - ✓ 海外のビジネスパートナーの発掘
 - ✓ 新規事業創出のための戦略投資

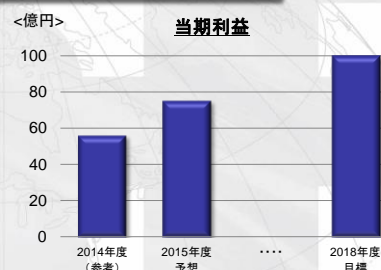


2 数値目標

成長戦略 ① 統合効果によるシェア拡大 ② グローバル戦略の強化 ③ 成長加速の施策

[2018年度]

売上高	5,000億円以上
当期利益	100億円以上
ROE	8%以上



■ 免責事項

ここに(Page.24/29)述べられたガートナーのレポート（以下「ガートナーのレポート」）は、ガートナーのシンジケート購読サービスの一部として顧客向けに発行されたデータ、リサーチ・オピニオンもしくは視点を表したものであり、事実を表現したものではありません。ガートナーの各レポートは、レポート発行時点における見解であり、この目論見書/企業レポート発行時点のものではありません。またガートナーのレポートで述べられた意見は、事前の予告なしに変更されることがあります。

The Gartner Report(s) described herein, (the "Gartner Report(s)") represent(s) data, research opinion or viewpoints published, as part of a syndicated subscription service, by Gartner, Inc. ("Gartner"), and are not representations of fact. Each Gartner Report speaks as of its original publication date (and not as of the date of this Prospectus) and the opinions expressed in the Gartner Report(s) are subject to change without notice.